

令和3年11月30日亀岡市教育委員会会議録

- 1 開会 午後2時00分
閉会 午後3時50分

2 出席委員

神 先 宏 彰	教育長
江 口 昌 道	教育長職務代理者
北 村 真 也	委 員
末 永 礼 子	委 員
出 藏 裕 子	委 員
福 嶋 百合子	委 員
陀 安 一 郎	委 員

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

片 山 久仁彦	教育部長
久 保 日出樹	次長兼総括指導主事
亀 井 鶴 子	教育総務課長
三 宅 邦 子	学校教育課長
樋 口 竜 次	社会教育課長
山 崎 浩 久	社会教育課人権教育担当課長
岩 崎 盛 雄	歴史文化財課長
桂 和 裕	学校給食センター所長
谷 仁 志	図書館長
谷 口 正 二	みらい教育リサーチセンター所長
阿比留 綾	教育総務課総務係長

5 傍聴者

1名

6 議事の概要

(1) 開会

○教育長が開会を宣言。

(2) 前回会議録の承認

令和3年10月19日に開催した定例会の会議録を一部修正して承認した。

(3) 教育長からの報告

○教育長から以下の報告があった。

◎亀岡市関係

- ・総合教育会議において、学校と地域のあり方、18歳成人への啓発及び成人を祝う式典のあり方、学力向上、ICT教育の推進、教育大綱の策定について協議した。
- ・ふるさと亀岡の歴史文化遺産を守る支援補助金に係る選考会に出席し、補助金1件に関し審査した。
- ・スポーツ賞選考委員会が行われ、表彰要綱や選考方法などについて協議した。
- ・戦没者追悼式が新型コロナウイルス感染症対策を行う中で開催され、戦没者を追悼するとともに恒久平和を願った。
- ・ジュニアオリンピックカップ陸上競技大会において、女子円盤投げで8位に入賞した亀岡中学校の生徒から受賞報告を受けた。
- ・生涯学習推進設備として茶室「亀遊庵」がギャラリーかめおか内に整備され、完成披露式典に出席して完成を祝った。
- ・自治振興式典が開催され、市政功労者などが表彰された。
- ・市議会 幹事長（会派代表者）と市長との討論が初めて行われた。対面形式で内容の濃い討論が行われた。
- ・市優良職員表彰式が行われ、勤続15年・20年・25年の職員が表彰された。
- ・かめプー（亀岡運動公園プール）フィッシングパークの開園式が行われ出席した。全プールを使用してニジマスが放流され、家族で楽しめる場所として夏季以外にも活用されることになった。
- ・学校規模適正化にかかる東別院町保護者説明会を開催し、先に提出された要望事項に回答しながら説明を行った。
- ・校園長会議を開催し、公立高校の志願状況を説明し、いじめ・不登校対応について指示をした。また市ホームページの改定にあわせて学校ホームページも改定し、迅速に情報を掲載するように指示した。
- ・部落解放同盟亀岡市協議会とのこん談会が行われ、すべての子どもたちに等しく教育を受ける権利が保障されるよう教育環境を整えていくことなどこん談した。
- ・例年5月に行われていた明智光秀公慰霊祭が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期して行われ出席した。

- ・「光秀公のまち亀岡 俳句大賞」審査委員会が開催され出席し、応募作品 4, 364 句の中から大賞他、各賞の選定を行った。
- ・西部4町自治会長から市長とともに、西部地域の学習環境等に係る要望を受けた。
- ・学校規模適正化にかかる西別院町保護者説明会を開催し、東別院町と同様に先に提出された要望事項に回答しながら説明を行った。
- ・麒麟がくるレガシー講演会が開催され、亀山城の素晴らしさについて気づかされる講演であった。
- ・市議会定例会12月議会が再開され、冒頭に故小松康之議員の追悼演説が行われた。

◎国・府等の関係

- ・全国生涯学習市町村協議会会長（亀岡市長）の代理で文部科学省に要望書の提出を行った。
- ・近畿市町村教育委員会研修大会が尼崎市で開催され、教育委員とともに出席した。
- ・南丹教育局管内教育長会議が開催され、京都府事業の説明などを受けた。
- ・京都府予算要望活動が行われ、教育関係分について京都府教育委員会に対して要望を行った。
- ・京都府内市町（組合）教育委員会研修会がリモートで開催され、教育委員とともに出席した。
- ・京都府中学校駅伝競走大会が丹波自然運動公園で行われた。東輝中学校女子チームが入賞し、12月5日の近畿大会に出場する。

(4) 議 事

議案番号	件 名
第11号議案	亀岡市指定文化財の指定に係る諮問について
第12号議案	児童生徒の入学すべき学校区を指定する規則の一部を改正する規則の制定について

○第11号議案について歴史文化財課長が議案説明を行った。

第11号議案は、「絹本著色仏涅槃図」と「亀山藩主形原松平家墓所」の2件の文化財を亀岡市指定文化財に指定するため、亀岡市文化財保護委員会に諮問するものである。亀岡市文化財保護委員会で協議・検討いただいた結果を答申いただき、あらためて再度、教育委員会に諮って指定していくものである。学術上価値のあるものとして「絹本著色仏涅槃図」は亀岡市指定有形文化財に、「亀山藩主形原松平家墓所」は亀岡市指定史跡名勝天然記念物に指定し、保存・継承していきたいと考えている。

○説明を受け、委員から次の質問・意見があった。

- 江口職務代理者 涅槃図の劣化が懸念される。真ん中の部分が特に縦に劣化しているが、原因はわかっているのか。
- 歴史文化財課長 丸めた状態で収納、保存されていた。伸ばした時に線が入ったのだと思われる。なるべく元の状態を活かして修繕を行う予定である。
- 江口職務代理者 指定を受ければ補助対象となってくるので、それも含めて指定を受けて修繕を進められたらと考える。

第11号議案について、原案どおり承認した。

○第12号議案について学校教育課長が議案説明を行った。

第12号議案は、大井町南部土地区画整理事業の換地処分による地名変更が行われるため、児童生徒の入学すべき学区を指定する規則の別表のうち、大井小学校の区域に「並河4丁目・5丁目・6丁目」を追加するものである。換地処分の公告があった日の翌日から施行するものである。

なお、令和3年8月10日に公布した別院中学校を南桑中学校に編入する規定については、令和5年4月1日に施行するものである。

第12号議案について、原案どおり承認した。

(5) 報告事項

- ① 令和3年度近畿市町村教育委員会研修大会の報告について
- ② 令和3年度京都府内市町（組合）教育委員会研修会の報告について
- ③ 令和3年度市町村教育委員会オンライン協議会（第2回）の報告について
- ④ 学校規模適正化について
- ⑤ デリバリー弁当喫食時アンケート結果について
- ⑥ 学校給食における牛乳のプラスチック製ストローごみ削減及び牛乳パックのリサイクルについて
- ⑦ 令和3年度12月教職員研修講座のお知らせについて

○各課長等からの報告を受けて、委員から次の質問・意見があった。

<令和3年度近畿市町村教育委員会研修大会の報告について>

- 江口職務代理者 G I G Aスクール構想に一石を投じたいという東北大学加齢医学研究所 川島所長の「脳科学の知見を活かした教育」の講演は、一石どころか根底から覆されるような内容で、参加していた教育委員はおそらく衝撃を受けたのではないかと思う。G I G Aスクール構想の1人1台端末導入の話が出てきた時、私は否定的で、

年齢に応じた導入がいいのではないかと申し上げていた。自分の子どもにも中学を卒業するまではスマホを持たせないことにしており、脳科学的には間違いなかったと感じた。ただ、コロナ禍や災害時にはオンライン授業の必要性も感じたので端末の導入にも賛成した。今回の研修では、一つの視点、考え方もあると理解した上で、アナログとデジタルの両方を取り入れていければいいと感じた。

末 永 委 員 G I G Aスクール構想についてはどのように進めていくかという段階であり、講演の意味はどこにあったのかと考えた。ただ、デジタルが0（ゼロ）か100かという考え方ではなく、それぞれの良さを活かしてバランスよく取組んでいく、その方向に学校現場を含めて私たちが持っていかないといけないのではないか。マイナス面をよく知った上で、良さを活かして子どもたちの学習によりプラスになる方向で使っていくことだと思った。

小野市の取組で読書を大事にしておられる。全国学力・学習状況調査の中で、全国的な傾向として、所得が高いと学力が高いという調査結果があるが、中には所得が低いけれど学力が高い層があり、その違いは読書にあるという別の調査結果がある。小野市が取組んでいる読書を本市も見習ってはどうかと思った。

出 藏 委 員 教科書もすべてデジタルになればいいと考えていた。脳の成長がとまってしまうと聞き、使う場所と使う時間を決めて活用することが大切だと感じた。

小野市の「夢と希望の教育」という教育方針は、よく聞く言葉ではあるが、取組に感銘を受けた。

福 嶋 委 員 脳科学の研究に基づいた「大人の脳トレ」で有名になられた講師の方なので、G I G Aスクール構想にヒントになるような講演かと考えていたが全く逆であり意外であった。講演内容は、スウェーデンでベストセラーになった著書「スマホ脳」とほぼ同じ内容であると思った。G I G Aスクール構想においては、コロナ禍の中でデジタルが必要な部分もあり、またアナログでの対面授業も大切であると思っている。出席していた教育委員に衝撃的で混乱を生むような内容であったと思うが、今、始まっているG I G Aスクール構想を妄信的に続けていくのではなく、弊害についても知って

おく必要があるということで研修をされたのではないかと理解している。

教 育 長 本を読むという基本的なことを大事にする一方で、デジタルも将来的に使えないといけないであろうし、デジタルとアナログの融合、バランスが大事であるとあらためて感じた。そのことを教育委員会が示していく必要があると思っている。

<令和3年度京都府内市町（組合）教育委員会研修会の報告について>

江口職務代理者 自宅でのリモート会議は、電話や来客があり環境を整えて臨まなければと思った。

この研修の前に教育委員部会世話人会に南丹ブロックの代表として出席した。各ブロックの報告があったが、南丹ブロック以外はほとんど交流をされていない状況であった。そのような中でも会議は集まって顔をみて行いたいし、会議後の会話の中で情報交換ができると思っている。事務局も集まって開催する方向で、今後は検討するとのことであった。

リモートで画面だけの研修は頭に入りにくく課題だと感じた。京都教育大学 古賀教授の「子どもの育ちと学びをつなぐ幼小接続の推進」の講演については、お互いに学びあったり一緒に取り組む事例が、幼小連携の参考になり今後活かしたいと感じた。

出 蔵 委 員 幼小連携ではまずは先生を好きになり、学校が好きになって登校しぶりがなくなり、先生も子どもも頑張れる。互いが互いを高めあうということにおいても、エージェンシーがキーワードになると感じた。

一つの突破口として、リーダーが本気になることが大事ということがあったが、本市の第2次教育振興基本計画の策定にあたって私たちも本気になって今後10年間の教育を考えてきた。この計画は子どもたちにも即、響いてくることであり、今後も教育委員会がチームワークを発揮してしっかり考えていきたい。

末 永 委 員 全国学力・学習状況調査において、自分を肯定的にとらえることが若干弱いということが、本市でも課題であるが、データを国際比較して示される中で、日本の子どもたちは総じて主体的な面での力の違いを課題として示されたと感じた。エージェンシーは、現状をとらえて自分がこうしたい、だから自分はこうするというように、学習や学校活動、日常生活の中で実際にや

ってみることで力をつけさせていくこと。このことを私たちの取組の中でもっと重視しなければいけない。子どもたちは失敗をしながらでも実際に体験する中でしか成長はできないのではないかと考えさせられた。一方で、主体性のとらえ方についても、子どもが自発的にしていれば何でもいいというわけではなく、客観的な状況や方向性に合理的な判断や思考があるのかどうかを見ながら育てていくべきで、子どもを受け身的な存在ではなく、育てていく方向性を考えていく必要があるということを示されたように思う。

福 嶋 委 員

エージェンシーの話の中でシンガポールの取組が印象に残った。日本の教育は教えることが多すぎて、子どもが発展して学んでいく意欲につながらないのではないかと、また教材の準備など教師の負担も大きい。熱心な先生は教材研究で遅くなったり、休日に出勤されることもあると聞いている。教える内容を減らしてもっと十分な準備ができるようでないといけないと思う。幼小接続の講演においては、コーディネーターがおられる市町があり、本市にとっても必要だと感じた。

教 育 長

少し異なる話になるが、中学校での暴力事象が激減している。反抗期がなくなっていたり、けんかや口論がない。コミュニケーションがうまくとれなかったり、大人が事前に止めてしまっている。手加減や手前で止めること、逃げる経験できていない。最近の事件をみているといきなり殺人事件を起こしており、怖さを感じる。

<令和3年度市町村教育委員会オンライン協議会（第2回）の報告について>

出 藏 委 員

鎌倉女子大学 伊藤准教授の「インクルーシブ時代の学校教育」という講演で、普通教育と特別教育を分けるのではなく、これからは必要な場面、場面で支援をつけるという考え方や、多様な子どもたちではなく、子どもは多様なんだという考え方の転換が印象に残った。また一見、障がいを持っていない子どもでもそれぞれ困りごとはある、それぞれの良い面を伸ばしていこうという教育がこれからは大事であるということに共感した。インクルーシブ教育は、第2次教育振興基本計画に盛り込めたらと思った。

- 末永委員 インクルージョンからインクルーシブな環境、その子に特性があると言っていることは、実は周りの人々の態度と学校の環境が作用する中で、特性を特性たらしめているという捉え方はとても参考になった。私たちの中には平均的な子ども像があつて、不登校の子どもや障がいのある子どもと捉えていたが、子どもが大勢いて、その子どもの中にグラデーションのように不登校があつたり、障がいがあつたりというように子どもを捉えていく見方は参考になった。同じ規模同士の自治体でグループが分けられていて良かったが、オンラインで交流が深まるかというとなかなか難しいと感じた。
- 福嶋委員 参加していた分科会は比較的活発であつた。明石市では不登校を未然に防ぐためのマニュアルを作成されていて、連続で欠席する3日目と7日目がポイントになるということで対応されている。マニュアルをもとに若手職員の研修にも取り入れておられ、本市でも参考になるのではないかと思った。明石市長は弁護士ということもあり、スクールロイヤーがおられ、学校や保護者にとって心強いとのことであつた。グループ内の他の市では弁護士の数が少ないので配置は難しいとの意見が多かつた。リモートでは雑談もできず、資料以上のことを深めるのは難しく、研修はやはり対面式が良いと感じた。
- 北村委員 インクルーシブ教育は、神奈川県では取組に歴史があり、知恵と経験を蓄積されている。ICFの考え方に基づき、障がいは個人の中に起因するよりも社会の関係性の中に起因する。画一的な普通教育が問われているという論点であつたと思う。

<学校規模適正化について>

- 末永委員 東別院町、西別院町の保護者からの要望書のすべての質問に丁寧に回答され、このように一步一步進めていくことが大事だと思う。交流事業については、講演を一緒に聞くだけでなく、取組の時点から生徒会同士で交流することが良いと感じている。今後の交流の着実な一歩につながると思う。
- 江口職務代理者 交流事業を視察したいが可能か。
教育総務課長 事前にお知らせいただければ可能である。

<デリバリー弁当喫食時アンケート結果について>

出 藏 委 員 配膳室にお弁当を取りに行くことで食べる時間が短くなると聞いている。給食を導入されている他市の学校では、昼食時間にもう少しゆとりがあるように聞いているが、昼食時間を確保するために見直していくことはできないのか。

学校 教育 課 長 学校とも協議し検討していきたい。

<学校給食における牛乳のプラスチック製ストローごみ削減及び牛乳パックのリサイクルについて>

出 藏 委 員 年間95万本のストローが使用されており画期的な取組だと思う。吉川小学校では4～6年生で実施されているようだが、低学年は難しいのか。

学校給食センター所長 全学年で取り組むのが本来ではあるが、牛乳パックを開ける際にこぼすなど、低学年には難しいと思っている。

出 藏 委 員 本来6年生が1年生に教えに行っていたがコロナ禍でできていない。できれば全学年で取り組んでほしい。

末 永 委 員 Pepper が声掛けすることで意識づけが図られ、身近なところから見直していこうという有意義な取組だと思う。一方で、図工などで使用しているハサミで飲み口を切るのは少し不安に思い、考える必要があると思う。飲み口を開いて飲めるタイプの牛乳であれば飲みやすいので業者と協議されてはどうか。

教 育 長 経費との兼ね合いもある。専用ハサミを班ごとに渡すなど工夫したい。

<令和3年度12月教職員研修講座のお知らせについて>

出 藏 委 員 二次元コードで資料もみられるということで新たな取組だと思ったが、今回から改善されたのか。

みらい教育リサーチ センター所長 7月の講座案内から実施しているところである。

(6) 閉会

○教育長が閉会を宣言

以 上